



つむぐ

No. 18

令和3年11月24日発行 袋井市幼児教育センター

テレビやビデオ、ゲームなどは 時間や約束を守ります



スマートフォンに興味をもつ子

電子メディアが幼児に与える影響

子どもは生まれながらにしてたくさんのメディアに囲まれて生活しています。テレビやゲームなどに触れる機会は乳児から始まり、年齢が増すごとに長時間化する傾向にあります。

心と体の基礎をつくる大切な時期に、電子メディアに触れる時間が多くなると体を動かす機会や友達と直接顔を合わせて言葉を交わしたりする時間が減り、視力の低下にもつながります。

子どもと一緒に電子メディアの付き合い方を考える

小さいうちからテレビやゲームなどの付き合い方を学ぶことが大切です。3歳頃になると少しずつルールの内容を理解し、守ることの大切さもわかってきます。

あらかじめ時間や約束事を親子で決めておき、子ども自ら「もう終わり」と切り上げたときは褒め、次に気持ちを切り替えられるようにします。

幼児期のうちに電子メディアとの接し方を親子でルール化することは、小学生以降、メディアとの付き合い方を自分で選択したり、調整したりする力につながります。



家族で子どもが守れる
ルールを決める

袋井の幼児教育で
育成する力

生活習慣	自分のことは自分でできる	(1)自立心
		(2)道徳性 規範意識の芽生え
		(3)健康な心と体
		(4)社会生活との関わり
学びに向かう力	みんなと頑張れる	(5)自然との関わり・生命尊重
		(6)言葉による伝え合い
		(7)協同性
基礎となる力	考える・やってみる	(8)思考力の芽生え
		(9)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
		(10)豊かな感性と表現

本市では、「袋井市就学前教育・幼小接続カリキュラム」に基づき、10の力を育成する教育を行っています。幼児教育センターだより『つむぐ』では、市内の幼稚園や保育所(園)こども園での実践の様子などを紹介しています。

袋井市教育委員会 幼児教育センター 86-5511 幼児教育センターHP <https://fukuroi-education.edumap.jp>

